

## 11.23幌延デー 北海道青年女性学習会&北海道集会

### 北海道への核の持ち込みは許さない!!!



11月23日、天塩町で「11・23幌延デー北海道青年女性学習会」が開催され、4産別1団体175人が結集し、名寄市職労青年部からは11人が参加しました。



主催挨拶をする齊藤実行委員長

#### ○核のゴミ、ダメ。ゼッタイ。

はじめに、主催者である北海道青年学生平和友好祭実行委員会の齊藤実行委員長（道本部青年部長）から情勢や幌延の歴史に触れながら主催者あいさつがありました。あいさつでは、「福島原発事故の問題や、米軍基地施設の建設など、課題は沢山ある。私たちが安心して働き続けるためには何が必要か、改めて考えてほしい」とお話がありました。

その後、映画「高江・森が泣いている」を上映し、平和闘争の意義を確認しました。

そして学習会終了後に、「第31回11・23幌延デー北海道集会」が、幌延町共進会場で開催され、全道各地から結集した仲間と一緒に、幌延町をデモ行進しました。

#### ○幌延には何があるの？

幌延町には「幌延深地層研究センター」があります。この施設では現在、高レベル廃棄物の地層処分についての研究が進められています。地層処分の研究は全国的にも数カ所しか行われておらず、幌延町も現状はあくまで「研究施設」ですが、なし崩しの研究期間の延長により最終処分場になる可能性があります。

#### ○なんでこんな寒い時期に？

なぜ寒さがしみる11月23日に開催するのでしょうか？

幌延デーの起源は今から31年前の11月23日に「動力炉・核燃料開

発事業団」が深夜にボーリング調査を強行し、それに対する地域住民の怒りが発端となっています。

#### ○処分場＝交付金

NUMO（原子力発電環境整備機構）では、処分候補地に名乗りを上げた自治体に対し、規定された調査を行うことで、1自治体につき年間で数十億規模のお金を交付しています。財政事情が厳しい地方自治体には、とても大きな交付金であることは間違いありません・・・が、厳しい財政事情の原因、それを盾に処分場の誘致が進められている実態を、私たちはしっかりと学ぶ必要があります。

●集会会場には約800人が結集した



●幌延町内をデモ行進！

